

知的財産事例

未来ギフト実行委員会

人、そして地域の未来に向けて 知財を“財源”としてブランディングする考え方

事業内容

2020年設立（任意団体）
地域活性化イベント等の企画・運営
地域食材の付加価値を高める商品の研究・開発、情報発信

知的財産権と内容

商標第6489031号

ミライギフト

(2024年3月現在)



会長 大島史郎さん 相談役 宮丸佳奈子さん

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA

個人の取り組みから

人との繋がりです業を拡大

当団体はコロナ禍での不安に世間が苛まれていた数年前、唐津市で飲食店を中心とする事業を行う「株式会社椿」の経営者である宮丸相談役によって発案。人のため、地元のために何かできることはないか…との思いから、人脈を活かし3か月間で1,000人以上とコンタクトを重ね、地域の人々の“声”に耳を傾けた。唐津商工会議所青年部にて女性初の会長に就任した経験もある宮丸相談役。商工会議所の青年部をきっかけに出逢った良きビジネスパートナーである大島現会長に会長職を承継後、相談役となった現在も団体活動の主軸として携わる。そうして取り組みを進めていくうちに協力者は一人、また一人と増えていった。県内最大の離島である馬渡島（まだらしま）の活性化等、唐津西高校の生徒たちと協力した試みも多い。県内でも貴重なボランティア部を有する同校は「人つなぎ」をテーマとした当団体のブランド性とも親和性が高いという。地域活性化活動の持続を目的とした協定も結んでおり、縁を繋いでくれた当時の校長は教員を退職後、当団体の教育相談役を担っているとのことだ。

立ち上げ時から商標によるブランディングを検討

自ら経営する会社で商標を取得した経験もあり「立ち上げ前から知財は意識していた」と宮丸相談役は話す。ゆえに企画を考案した時点で佐賀県のINPIT知財総合支

援窓口にご相談し、計画を進めていった。担当者や弁護士が自分のことのように親身になって話を聞き、迅速に情報共有を行ってくれたことで、スムーズな申請に繋がったそうだ。取得の目的は主に「活動の財源確保」。地域の活性化事業は従来、ボランティア的な側面が強く、経済的な負担が大きくなりやすい。そこで、当団体がブランディングによる収益化の実績を作り、アイデアはあってもリスクを恐れ踏み出せずにいる後進の背中を押ししたいと考えた。それと同時に、この活動を未来にも引き継いでもらうために、活動の基礎となるビジネスモデルを今の時代に築きたい、という意志もある。現在は会員企業による会費、およびパートナー契約料を主な収益源としているが、それも今後十分な財源が確保できれば廃止していきたい考えだ。

地域の人々・モノの可能性を広げ 活性化をプロデュース

商標が活かされた当団体の事業としては、ネット上のプラットフォームを利用したモノとサービスがコラボした「未来ギフト唐津」が代表的である。例えば、馬渡島（まだらしま）の特産品として知られる柑橘類“げんこう”を用いた商品と合わせて、農作業イベント等のWebチケットも販売し、県内外の人々に対して新鮮な体験の場を提供している。その取り組みは消費者向けに留まらず、農家や漁師等、生産者たちの地域活性化への理解を深め、個人間の温度差を縮めて円滑な相互体制を構築することを目的とした「未来ギフト勉

強会」なども実施。事業の本質は、その地域の人々の可能性を広げるサポートにある。「特に地方では、課題を抱えながらも上手く活性化できていない地域も多い。そこで、ひとつひとつの魅力を線として“つなぎ”、足りない部分を補うお手伝いができれば」と宮丸相談役は語った。既に県外の市町村とも協力している当団体だが、今後は更に可能性を広げ、活性化の仕組みを国内外に横展開していきたいとの展望だ。

新しい試みであるがゆえに 誤解を受けた経験も



知財取得に関しては支援窓口を通し、担当者や弁理士、その他ブランディングの専門家等が丁寧に対応してくれたため、特にトラブルはなかった。しかし、事業の立ち上げ当初は新しい試みであるがゆえに、パートナー企業からは自社のコンサルティングや営業活動を行ってくれるのではないかとといった誤解を受けることもあったという。その際には、「できることから

ひとつずつ」という大島会長と宮丸相談役の共通のポリシーに基づき、真摯に受け止めて改善していった。事業と並行して話し合いを重ねるのは容易ではなかったが、逃げずに向き合いながら取り組みを継続してきた結果、現在は理解を得られるようになったそうだ。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

「いかに未来を想像できるか、が前に進んでいくカギだ」と宮丸相談役は話す。「自分たちも日々、こう動いたら、こう考えたら…と、先を見通しながら一歩ずつ踏み出してきた。目の前のことに着実に向き合っていけば、その積み重ねが必ず未来を創っていく。“未来”のための準備として、知財というライセンスを持つ方法もある。未来の子どもたちに受け継げる事業にするためにも、確固たるブランドや収益を得る手段を持つことは大切であり、きっと組織にとって大事な宝物になると思う」と合わせて語った。



馬渡島の特産品である柑橋類い「げんこう」は、ぼん酢等の製品に活用しやすい



取り組みには地元の高校生も含め、数多くの地域の人々が協力



知的財産活用のポイント

行動力により広がった人脈と 積極的に耳を傾ける姿勢

立ち上げから商標の取得を検討していたという当団体。知財の取得にもコストがかかるが、その先を見越してブランディングを優先できたのは、経験豊富な大島会長と宮丸相談役が協力し、双方のノウハウや知恵を共有した面も大きい。そこに卓越した

行動力も加わり、様々な人脈に恵まれたことで現在の幅広い活用に至っている。また、当団体は支援窓口において、知財をビジネスモデル戦略として活かす効果的な方法についてのアドバイスも受けている。唐津市や唐津観光協会など行政機関との関わりも深く、「多くの人々との信頼関係が強固に築かれている背景には、常に『人の話を聞く』ことを大切に事業を行ってきた姿勢がある」と宮丸相談役は話した。

COMPANY DATA

取材：2024年3月

企業名：未来ギフト実行委員会 所在地：佐賀県唐津市 電話番号：なし

URL：HPリニューアル中 創業：2020年 会員数：12名（※2022年時点）